

沖縄総合事務局国営事業評価技術検討会（第2回） 議事概要

- 1 日 時：平成 28 年 7 月 15 日（金）15:30～16:50
- 2 場 所：那覇第2地方合同庁舎2号館2階D・E会議室
（沖縄県那覇市おもろまち2-1-1）
- 3 対象地区：国営かんがい排水事業「羽地大川地区」
- 4 委 員：幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役
内藤 重之 琉球大学農学部教授
吉永 安俊 琉球大学名誉教授
- 5 議 事：

・沖縄総合事務局国営事業評価技術検討会（第2回）を開催し、事務局より前回の術検討会の意見を踏まえ、事後評価結果の修正案を説明し、了解を得た。

質疑応答の概要は以下（1）のとおり。

なお、欠席の井口委員及び立原委員からは事前に同内容を説明の上、了解を得ている。

・技術検討会委員により、事後評価結果に対する「技術検討会の意見」の取りまとめが行われた。

技術検討会の意見は以下（2）のとおり。

（1）質疑応答の概要

（委 員）

- ・関係機関からの意見はどのように取りまとめるのか。

（事務局）

- ・技術検討会の意見の取りまとめに併せて、関係機関からの意見をどのように評価に反映させるかについても御検討をお願いしたい。

（委 員）

- ・「キャベツについては当初見込んでいた本州産の端境期需要が輸入キャベツによって対応されるようになったために生産の拡大が計画どおりとはならなかった」と記載されているが、輸入キャベツが要因の1つとなったことは間違いないが、愛知県等国内産地が冬場から春場にかけてまで出荷を拡大したことも要因として大きいと思われるので、輸入キャベツに加えて「本州他産地の（生産拡大・販売）先拡大による・・・」という文言を追加して整理したほうがよいと考えるが如何か。

（事務局）

- ・「輸入キャベツにより対応と本州他産地における生産の増大」として修文する。

(委員)

- ・環境保全型農業の推進に係る部分で、多面的機能支払交付金の記載があるが、当該交付金は沈砂池も対象となるか。交付金の対象となるのであれば追記してはどうか。

(事務局)

- ・当該交付金の対象となる活動の中では沈砂池の土砂上げ等も含まれることから、追記し例示することで活動を促す契機としたい。

(委員)

- ・羽地内海は風光明媚な場所で昔から沖縄の松島、瀬戸内海と例えられるように観光地としても大変価値の高いところと認識している。農業面だけの効果ではなく観光地という観点でも文言を追加してはどうか。

(事務局)

- ・御指摘の件は、技術検討会の意見として整理するか、または総合評価の中で追記するか、この後調整させて頂きたい。

(委員)

- ・その他、総合評価の中で表現等を少し変更して欲しいという意見を出しているが、書きぶりについては事務局に一任しており、再整理出来た時点で我々に提示して頂くこととする。

(2) 技術検討会の意見

- ・本事業及び関連事業の実施により、安定的な農業用水の供給がなされたことで、干ばつ被害が解消されるとともに、すいかやマンゴー等の高収益作物の増加や新たに薬用作物の導入等が図られている。

また、事業の実施により、かん水に係る労働時間が短縮されるとともに、区画整理による機械の作業効率が向上するなど、農作業の合理化が図られている。

さらに、地域農業の担い手の育成、地場産品の消費拡大等、事業を契機とした様々な波及効果も認められており、地域農業の活性化が図られている。

なお、本地域は風光明媚な観光地として知られ、本事業により耕土流出が抑制される等、自然景観保全への大きな効果も認められる。

一方で、事業によるこれら効果を安定的に維持するためには、老朽化した施設の適切な管理と計画的なメンテナンスが重要と考える。また、環境保全型農業の推進については、更なる効果発現のために、関連事業の計画的な推進と併せて、関係機関が連携して、例えば多面的機能支払交付金の積極的な活用等、地域が一体となった取組を進めることが望まれる。